

# Interview

株式会社World Au Pair in JAPAN  
代表取締役社長  
**横山保徳**

## Introduction

戦後、女性の社会進出、核家族化や都市化の進展、出生率の低下など、子どもと家庭を取り巻く環境は大きく変化してきた。その環境下、「就労」と「育児」を両立させるためには、従来の施設保育だけでは対応できなくなっている。そこで期待されるサービスの一つに、フランスで始まった「オーペア (Au Pair)」という、海外の若者をベビーシッターとして長期間雇用する制度がある。「オーペア」は、フランス語で「対等の立場で」という意味。自立心のある若者の、国際交流を支援するプログラムだ。ドイツそしてアメリカと、自らオーペア制度を利用した留学経験から、日本で「株式会社World Au Pair in JAPAN」を起業して国際交流支援を進める横山保徳代表にお話を伺った。

## Yasunori Yokoyama



### ◆プロフィール

1980年8月11日、千葉県市原市で生まれる。野球少年として育ち、中学、高校と野球部に所属。2008年11月18日、アメリカから帰国し、自ら経験したオーペア制度を普及するため「World Au Pair in JAPAN」を創業し、代表となる。

# 日本初の男性「オーペア」 経験者として国際交流の 支援ビジネスを展開する

——オーペア (Au Pair) 制度とは聞きなれない言葉ですが、まず、その内容を教えてください。

横山／欧米では、働く家族を支えるため、ベビーシッターを雇うことが一般的に行われています。そのベビーシッターに、外国の若者を雇用することで、子どもたちに異文化を学ばせることができます。逆に若者たちは、海外で生活体験を積みたいと思ったり、お金を支払って勉強するのでなく、「お小遣い」をもらいながら現地で生活することができます。

World Au Pair in JAPANは、まず海外で生活したいと思っている日本の若者に、オーペア制度を知らせ支援することからスタートしました。創業4年目ですが、今では世界の若者がオーペア制度を利用して日本に滞在し、日本文化を体験するプログラムに着手しています。

——オーペア制度はベビーシッターをするという点ですが、男性もできるのですか。

横山／はい。通常は若い女性が対象です。私のケースもドイツにビザの申請

をしたとき、男性でオーペア制度を利用するのは最初だと言われました。

しかし、男性もいないわけではありません。子どもが好きな男性でも大丈夫。オーペアでは週に5日、1日5〜8時間ほど働くことになりませんが、その内容は食事の用意や掃除もありますが、何よりも子どもが好きなことが大切で、お母さんの代わりを務めるくらいので責任感を持って働く心構えが求められます。ですから相手の家族が了承すれば、男性でもオーペア制度を利用することは可能です。

私も、日本語のない環境で子どもと接したので、語学習得も早く、現地生活や家族とも深く関わることができました。受け入れる側の家庭も、子どもたちが幼少期のうちに異文化で育った人と触れ合う体験をさせたいようです。彼らは日本の文化、伝統、生活に興味があり、日本人の人気は高かったです。

——オーペア制度を支えるために、さまざまな便宜を図っているようですが、

横山／現実問題としてWorld Au Pair in JAPAN単独で、すべてを支援すること

はできません。そこで、自分がオーペア制度を利用したら何が必要かお客様（利用者及びご家族）の立場で考え、必要なサービスを提供する企業とのマッチングを助めています。

具体例としては、オーペアでの海外生活がスタートするにあたり、日本にいる親御さんが送金したいと思ったとき、銀行を使うと手数料もそれなりにかかります。また、海外でそれを受け取る側の子どもも、銀行の場所がわからない、引き出す時間がないなどの問題点が発生します。そんなとき親御さんが安心して送金できるように、JTBが安心して送金できるように、「JTB海外専用プリペイド「MoneyT Global」をお勧めします。これはコンビニATM、銀行ATMやインターネットバンキングで専用口座にお金を振込むだけで、残高の範囲内でVisa加盟店でのショッピングやPLUSマークのある海外ATMから現地通貨を引き出せる優れものです。

何よりも、世界40都市にあるJTBトラベルデスクが日本語でサポートしてくれそうですし、24時間対応のコールセンターもあります。



ます。

制度を普及させたいという思い、気持ちだけで起業に踏み切りました。ところが、会社の立ち上げはとんとん拍子に進みましたが、収入がありません。そこで定期的収入を求めて、オーペア事業を続けながら保育園で働いて収入を維持しようと思いました。定期収入がないと精神的にも苦しくなります。資金が苦しいときにお客様に合うと、契約を取りたいという気持ちで前面に出てしまい上手くいきません。

が目的でしたが、手を抜いて勤まる仕事ではありません。一生懸命働いているうちに主任になりました。責任は重くなりましたが、逆に自分でスケジュールを組むことができるので、プラス面もあります。何より主任になったことで、マネジメントの実践を学ぶことができます。

オーペアのプログラムは、若者を送り出してから戻ってくるまで、人生そのものを支援します。海外旅行の「楽しさ」を100すると、オーペアはその半分もありません。他人の家庭に入るわけですから、楽しさの前に、きちんと仕事をする厳しさが求められます。しかし、そんな厳しさ、苦しさを乗り越えて、一年間のオーペアを勤め上げた達成感は、非常に大きなものがあります。私自身も体験してきて、有効だと実感したオーペア制度の普及に、これからも人生を駆けてチャレンジしたいと思っています。

◆会社紹介◆  
株式会社World Au Pair in JAPAN  
日本オーペア情報センター

・代表/代表取締役社長 横山保徳  
・所在地/〒104-0061

東京都中央区銀座2-12-12 たちばなやビル3階

・電話/03-6271-0622

・URL/www.WorldAuPairinJAPAN.net

リニューアル中。今夏オープン予定

Eメール: aupair@WorldAuPairJAPAN.net

Facebook: www.facebook.com/worldaupairinjapan

・設立/2008年11月18日

・営業時間/09:30~18:00

■記者後記...

横山社長は、保育園で働きながら、日本にオーペア制度を定着させたいという夢の実現に努めている。もの凄い体力と精神の強さを感じるが、その目標設定には、感動を取り込むという成功の法則があるという。「私はアメリカに留学する前、2002年6月にサッカーワールドカップが日韓共催で行われたとき、韓国まで観戦に行き感動した経験があります。そのときに、4年後のドイツで開催されるワールドカップを現地観戦するという目標を立てました。つらいとき、正社員として働きながら新聞配達やコンビニの店員をしているとき、具体的な成功イメージとしてドイツでのワールドカップ観戦を思い描いて、頑張りました」。そう語る横山社長の目は、オーペア制度が日本で定着した未来をみつめて輝いていた。

World Au Pair in JAPAN だけでは、このようなサービスはとてできません。オーペア制度を利用するにあたり、一番いい選択肢を多角的に提案・推薦し支援することが大切なのです。

——ところで、横山社長はどんなきっかけでオーペアと関わるようになったのでしょうか。

横山/高校卒業後は、英語とスポーツを学んだ仕事に就きたいと思っていました。それには、アメリカの大学に行くのが一番ですが、問題は留学資金。両親には、アメリカの留学費用まで出す余裕はありません。留学幹旋会社でその話をすると、「一度就職して資金を貯め、それから留学してはどうか」と勧められました。そこで高校卒業後、最短でも3年間勤務することを条件に、電路支持材の総合メーカーの会社に就職し、商品センターの商品管理部門で部品を営業所に送り出す管理業務をしていました。

その会社では、朝の9時半から18時半まで働きました。しかし、4年間の

留学に必要な資金は約1000万円。なるべく短期間で集中的に貯めたいと考え、体力には自信があったのでアルバイトを二つ兼務しました。朝は4時から新聞配達、それから出社して働き、帰宅して仮眠をとります。そして今度は、深夜2時から翌1時までの3時間をコンビニでアルバイトをしていました。それを続けた結果、3年4ヶ月で1000万円の資金が貯まり、念願だったアメリカ留学のために退社しました。

——願いがかなったわけですね。

横山/はい。必死で働いて念願の留学生となりましたが、現地になじむことができません。日本人仲間に吸い寄せられ、たまたま関西の人が多く、英語を覚えるより関西弁を覚える悲しい結果になりました。

2003年6月に、休学して日本に帰りました。自信を喪失していた私は、家に引きこもり本を読みあさる日々を送っていましたが、ある日、電車の中でオーペアの広告を見かけました。そこにある「保育」という言葉が気に入

りました。高校の恩師に「君は子どもが好きだから保育士に向いている」と言われたことを思い出したので。

調べてみると、世界各国にオーペア制度はあり、それぞれ年齢制限が設けられていますが、アメリカは27歳までで、まずドイツでオーペアを体験し、その後アメリカに戻ろうと考えました。

目標ができた私は、独学でドイツ語を勉強し、保育園でボランティアを始め、母から料理の仕方を習い、オーペアをするときに困らないように準備を進めました。受け入れる家族も見つかり、2005年2月、ドイツでの念願のオーペアによる海外体験が始まりました。その後、アメリカでもオーペア経験を積み、2008年に帰国してからWorld Au Pair in JAPANを立ち上げました。

——起業は、順調にいきましたか？

横山/オーペア制度は、世界中にありましたが日本にはありません。資金は足りませんでした。日本にオーペア